

第18回 開発・技術マネジメント 革新大会

グローバルRD&Eマネジメントの新潮流を探る

変化する事業環境の下、研究・開発に携わられている皆様におかれましては、日頃から様々な課題解決に取り組まれていることと存じます。

毎年6月に開催をしております開発・技術マネジメント革新大会ですが、今年も、「グローバルRD&Eマネジメントの新潮流を探る」を基本テーマとし、グローバル市場で日本企業が勝ち残る為のRD&Eマネジメントのあり方、製品・技術革新・技術戦略、開発力強化、組織・人材革新等の事例を志高く、視座も高い講演者の方々にご紹介いただきます。

当日は、RD&Eマネジメント革新に取り組まれている志ある皆様同士の意見交換の場、課題解決の場にしたいと思っております。是非、ご参加をご検討いただきますよう宜しくお願い申し上げます。

開催
日時

2014.6.12 (木)
9:45～18:30 (受付9:15～)

会場

東京コンファレンスセンター・品川

主催

株式会社日本能率協会コンサルティング

09:45～10:00	開催にあたり
10:00～11:20	基調講演:グローバルR&Dの価値創出に向けた「連携」と「協創」 ～日本の研究所が世界をリードする時代を目指して～
11:30～12:30	特別講演:アジアのエクセレントR&Dへの挑戦 ～環境変化・グローバル化の荒波を乗り越えて～
13:20～15:00 ◇午後1部	【A-1】異なる事業分野の強み技術を融合した“ならでは価値”製品開発 【B-1】グローバル開発時代の大部屋開発の進化 ～多拠点化、物理的スペース制限を取り払う大部屋～ 【C-1】若者たちが会社の未来を描く ～「未来創造プロジェクト」への挑戦～
15:20～17:00 ◇午後2部	【A-2】大企業におけるイノベーションはどこから生まれるのか ～デンソーにおける新技術・新製品の取り組みから～ 【B-2】南蛮渡来のKI(Knowledge Innovation)で壁を乗り越え世界に拡げる「和の力」 【C-2】技術人材開発機能の強化に向けて ～Active & Direct 人材開発～
17:10～18:30	参加者交流会

プログラム

開催にあたり

アベノミクス政策もあり、2013年度の業績は好業績で終わることができた企業も多いことと思います。それにより一服感がありますが、消費税率のアップやグローバルでの競争激化などにより今後も厳しい状況は続くことは間違いありません。

そのような中、多くの製造業の重点課題として挙がるのは「イノベーション」と「グローバル化」です。技術がビジネスに繋がらない、技術力が低下したなどという声をよく聞きますが、やはり核となるのはオンリーワン技術を創出する力であり、それをグローバルで顧客価値に変換する力であると思います。私達はコンサルティング現場でその底力が日本の企業にはまだまだあると実感しております。

そこで本大会では昨年の大会に引き続き、「グローバルRD&Eマネジメントの新潮流を探る」というテーマを企画致しました。今後の「イノベーション」と「グローバル化」の実現に向けて本大会参加者の皆様方と交流し、ディスカッションして参りたいと思います。



RD&Eマネジメント革新センター センター長 鬼束智昭

午前 共通セッション (10:00~12:30)

※ 講演時間および内容は変更の可能性がございます。

基調講演

グローバルR&Dの価値創出に向けた「連携」と「協創」 ～日本の研究所が世界をリードする時代を目指して～

日本アイ・ビー・エム株式会社
執行役員 研究開発担当 久世 和資 氏

IBMは世界各地に12カ所の基礎研究所がありますが、その中の東京基礎研究所にて、ソフトウェアやサービスの領域を中心とした研究開発や研究所全体のマネジメントに従事してきました。今後、日本の研究所が世界をリードしていくためには、グローバルでのR&D戦略策定において積極的にイニシアティブを取ったり、企業や国の枠を超えてリーダーシップを発揮できる研究者の育成などが課題であると認識しています。さらに、既存のマネジメントシステムにとらわれない、研究アイデアやテーマを引き出すための新たな仕組みの構築など新たなマネジメントシステムが求められています。

本講演では、世界各地にある研究所間での「連携」と「協創」を通じて、グローバルでのR&Dの価値創出を推進していく事例の紹介と、さらには日本の研究所がいかに世界をリードしていくかについて皆さんと議論したいと思っております。

- | | |
|---------|--|
| 1987年4月 | 日本アイ・ビー・エム株式会社入社。東京基礎研究所において、プログラミング言語、パーペインブ・コンピューティング、ソフトウェア・テクノロジー、サービス&ソフトウェア担当を歴任 |
| 2004年4月 | 理事 東京基礎研究所長 |
| 2005年4月 | 日本アイ・ビー・エム株式会社 執行役員に就任 |
| 2006年8月 | 執行役員 大和システム開発研究所長 |
| 2007年5月 | 執行役員 サービス・イノベーション研究所長 |
| 2008年1月 | 執行役員 未来価値創造事業部長 |
| 2009年1月 | 執行役員 研究開発担当 現在に至る |



特別講演

アジアのエクセレントR&Dへの挑戦 ～環境変化・グローバル化の荒波を乗り越えて～

ハイアールアジアインターナショナル株式会社
取締役 チーフR&Dオフィサー 土屋 秀昭 氏

三洋電機の構造改革の一環として、白物事業グローバルNo. 1のハイアールとの提携から新しい枠組みで業務をスタートし、2012年1月にハイアールアジアインターナショナルR&Dセンターとして新たなスタートを切りました。

その間、日中の国民性や企業文化の違いなどに戸惑う日本人技術者たちとともに、待ったなしの事業構造改革を進める中で、マイノリティの改革も必要でした。中国や欧州市場向けなど新しい商品開発の機会を得た一方で、新体制下で、どのような課題が生じ、またそれをどのように乗り越えてきたのか、まだまだ取り組み途中ではありますが、現場視点での改革についてお話したいと思います。

- | | |
|-------|--|
| 1984年 | 東京三洋電機株式会社入社 |
| 2002年 | 三洋電機株式会社 冷凍機事業部 事業企画室 室長 |
| 2003年 | 三洋電機株式会社 アメニティソリューションズカンパニー 冷蔵庫ビジネスユニット BUリーダー |
| 2007年 | ハイアール三洋エレクトリック株式会社 取締役副社長 |
| 2012年 | ハイアールアジアインターナショナル株式会社 取締役副社長 冷蔵庫R&Dセンター長 |
| 2014年 | ハイアールアジアインターナショナル株式会社 取締役 チーフR&Dオフィサー |



※ 午後セッションは、2部制になっております。それぞれ、A~C3つの講演の中から、ご興味のある講演を1つお選びください。組み合わせは自由となっております。
 ※ お申込みが多数となり会場の定員に達した場合、セッションへのお申込みを締め切らせて頂く場合がございます。
 ※ 講演時間および内容は変更の可能性があります。

午後セッション

午後1部 (13:20~15:00) ▼下記セッションからいずれか一つをお選び頂き、お申込みください

A-1 製品・技術革新・技術戦略セッション

異なる事業分野の強み技術を融合した“ならでは価値”製品開発

株式会社ダイヘン
 技術開発本部 企画部・通信技術開発部
 部長 田中良平氏

技術開発部門は新事業創出の原動力としての機能を期待されています。一方で、既存製品の延長線上の開発では、他社と差別化されたお客様に驚きを与えるような新提案を実現することはますます難しくなっています。弊社はそれぞれ異なる事業分野で95年間にわたり蓄積してきた“ならでは”の強み技術と革新技術を組み合わせることで、

ワイヤレス給電に最適な電源システムの早期開発に成功し、未来の走行中給電への可能性を切り開く新技術提案を実現することができました。

本講演では、この「ワイヤレス給電用電源システム」開発を取り巻く弊社の活動事例をご紹介します。



午後2部 (15:20~17:00) ▼下記セッションからいずれか一つをお選び頂き、お申込みください

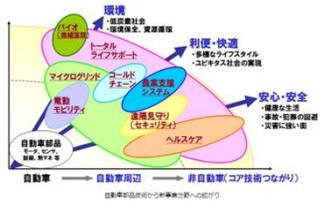
A-2 製品・技術革新・技術戦略セッション

大企業におけるイノベーションはどこから生まれるのか～デンソーにおける新技術・新製品の取り組みから～

株式会社デンソー
 技術開発センター 技術企画部
 担当部長 沼澤成男氏

当社は自動車分野で世界を目指すのみならず、自動車で培った技術を活かして産業・住設など幅広い分野での社会貢献を目指しています。一方で世界初のイノベーションを起こすきっかけは個人ではないでしょうか。世の中の流れに敏感で、技術者倫理とこだわりを持った個人が外部の人に共感を与え、異分野や異業種との接点でイノベーションが生まれるのではないのでしょうか。

本講演では2つの事例の開発経緯を紐解くとともに、こうした取り組みを意図的に行うためのマネジメントについて参加者の皆様とディスカッションしたいと思います。



B-1 開発力強化セッション

グローバル開発時代の大部屋開発の進化～多拠点化、物理的スペース制限を取り払う大部屋～

KAP IT (iObeya)
 VP - Strategy
 Zal J. PEZHMAN 氏

大部屋開発は、戦略的コミュニケーションをビジュアルに行うために、日本で生まれました。今日では、多数の欧米企業が、プロセスの合理化、生産性の向上、競争力の強化の為に大部屋を進化させて、多大な成功を収めております。自動車業界(シトロエン、ボルボ等)、航空宇宙企業(エアバス等)など、複数の業界・企業の組織で、無駄や本質的な問題点の洗い出しの「カイゼン」を行うことで効率的になり、そのチームではチームリーダーとメンバーが「カイゼン」アクションの継続的な活動を通じて、個々が「参加者」に変わり連携しています。多くの日本企業と同様に、グローバル企業の課題は、研究開発と、多くの場所に分散されている他のプロジェクトチームとの連携、国際的な拡大に迅速に対応することです。

本講演では、大部屋開発の世界の潮流をお話しするとともに、効率的なナレッジの共有、意思決定や報告のための現地現物大部屋会議の実現方法もご紹介いたします。



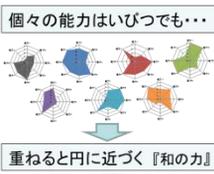
B-2 開発力強化セッション

南蛮渡来のKI(Knowledge Innovation)で壁を乗り越え世界に拡げる「和の力」

ヤマハ発動機株式会社
 エンジンユニット コンポーネント統括部
 ユニット技術部 ドライブトレイングループ
 ドライブトレイン製法係 主査 皆川 聡氏

二輪車製造技術担当部署として国内工場再編成・新興国新工場立上げに従事していますが、色々な壁にぶち当たり、悩みながらも前進したいと日々思っています。『KI』に出会い、笑うメンバーが増え、チームの雰囲気が変わり、自然と成果が始めました。組織風土を変えた一年間を振り返りたいと思います。

【ビフォー】
 パソコンに向かい一人で考える(モヤモヤ)
 【アフター】
 模造紙と付箋紙使い皆でワイガヤ(作戦はこうだ!)
 ワイガヤ・課題バラシ・合意と納得・YWT・振り返り



C-1 組織・人材革新セッション

若者たちが会社の未来を描く～「未来創造プロジェクト」への挑戦～

田辺三菱製薬株式会社
 人事部
 眞部 史朗氏

黙っていても未来は来るが、今の延長線上に未来はない。製薬業界は変革期を迎えており、我々にもこれを生き抜く変革が求められています。

それには、将来を支える若者たちの成長・活躍が必須です。今回は、若手社員達が会社の未来を考え、今からすべきことを会社に提案した企画、「未来創造プロジェクト」についてご紹介しながら会社の中で未来を描く難しさ、これを成し遂げるヒントについてお話しします。

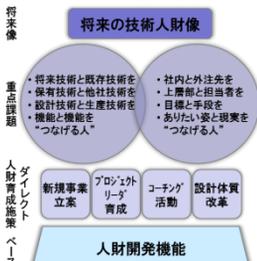


C-2 組織・人材革新セッション

技術人財開発機能の強化に向けて～Active & Direct 人財開発～

株式会社日立国際電気
 人事総務本部 人財戦略部
 主管 森 邦夫氏

経営課題・事業課題の高度化・多様化に伴い、技術人財の育成は、企業経営の命運を握る重要なテーマのひとつです。課題の認識において重要なことは、経営層及びライン部門に対するFact-Findingであることは言うまでもないですが、そのFactを作り出す構造を理解して対策を立案・実行することが、今後益々重要になってくると思います。当社が目指す人財開発の役割は、解になるベンチマークを提供して目指す方向性を示す一方で、やるべきことを確実に実行する人財の育成・組織運営を支援することです。本講演では、当社の活動状況のご紹介とともに、皆様からのご意見も頂戴してフリートークで行いたいと思います。



参加方法 下記URLまたはFAXでお申し込みください

http://www.jmac.co.jp/service/event/

FAX. 03-3434-2963

参加料／32,400円(資料・昼食・交流会・消費税込み)
定員／300名(お申込み順)

■参加申込方法

- 参加希望の方は、インターネットもしくは下記申込書にご記入の上、FAXにてお送りください。
- お申込み順にて受付、後日参加証・請求書をお送りします。

■ご注意

- 定員になり次第締切とさせていただきます。
- FAXでのお申込みは、開催日の3日前まで受付いたします。
- 同業者はお断りする場合がございます。
- 諸事情により開催を中止させていただく場合がございますので予めご了承ください。
- ご案内のご送付先変更・中止などのご希望の方は、お手数ですがご希望内容記載の上、メール、FAXにて本大会事務局までご連絡くださいますようお願い申し上げます。

■お支払いについて

- 参加料は請求書到着後1週間以内に請求書の銀行口座へお振り込みください。(振り込み手数料は貴社でご負担願います。)

■キャンセル規定

- 参加者のご都合が悪い場合は、代理の方の出席をお願いいたします。
- 代理の方も都合が悪い場合は開催日の前々日(土/日/祝日を除く)までに以下問合せ先までご連絡ください。
- 開催日の前々日(土/日/祝日を除く)までに参加者ご本人や代理出席の方の欠席のご連絡をいただきました場合のみ、入金確認後、振り込み手数料を差し引いた残額を返金させていただきます。
- 開催日前日(土/日/祝日を除く)や開催当日に欠席のご連絡をいただきました場合は、ご返金できませんので、予めご了承ください。

第18回 開発・技術マネジメント革新大会 申込書

参加証・請求書のご送付方法はどちらを希望されますか。

E-Mail希望

郵送希望

※PDF形式のファイルとなります。

貴社名・事業所名(フリガナ)

業種

- 1.食料品
- 2.繊維製品
- 3.パルプ・紙
- 4.化学
- 5.医療品
- 6.石油・石炭製品
- 7.ゴム・窯業
- 8.鉄鋼・非鉄金属・金属製品
- 9.機械
- 10.電気機器
- 11.輸送用機器
- 12.精密機器
- 13.その他製造業
- 14.電気・ガス業
- 15.運輸・通信業
- 16.卸売業
- 17.小売業
- 18.金融・保険業
- 19.建設・不動産業
- 20.サービス業
- 21.公共
- 22.その他

ご住所(フリガナ) 〒

▼午後の参加希望セッション(午後1部、午後2部)を選択して下さい

参加
責任者
※

氏名(フリガナ)

部署名
役職名

TEL FAX

E-mail

参加希望)各1つ選択してください

午後1部

A-1
 B-1
 C-1

午後2部

A-2
 B-2
 C-2

参加者
①

氏名(フリガナ)

部署名
役職名

TEL FAX

E-mail

参加希望)各1つ選択してください

午後1部

A-1
 B-1
 C-1

午後2部

A-2
 B-2
 C-2

参加者
②

氏名(フリガナ)

部署名
役職名

TEL FAX

E-mail

参加希望)各1つ選択してください

午後1部

A-1
 B-1
 C-1

午後2部

A-2
 B-2
 C-2

※印の方宛てに参加証・請求書をまとめてご送付します。(不都合がある場合は、備考欄にご記入ください。)

備考:

- 本個人情報、弊社事業活動におけるセミナー、イベント、アンケートのお願いなどに活用させていただくことがあります。
- 弊社は、収集した個人情報を適切に取り扱い、第三者への提供は行いません。
- 本情報の訂正、削除などをご希望される場合には、お問合せ先「第18回 開発・技術マネジメント革新大会事務局」までご連絡ください。

問い合わせ先 株式会社日本能率協会コンサルティング 第18回 開発・技術マネジメント革新大会事務局

TEL : 03-3434-0063 FAX : 03-3434-2963 E-mail : event_consult@jmac.co.jp